

# 高等学校国語科における授業改善の方策

## 1 国語科における授業改善の基本的視点

「第3年次の研究報告書」に基づき、次のような点を授業改善の基本的視点とした。教材の内容に関する自分の考えを文章に書いたり、意見交換したり、お互いに考えを深め合うとともに学習の過程を相互評価できるような授業を展開することによって生徒一人一人が学習内容に対して興味・関心や問題意識をもって学習するようになるだろう。そうすることによって、一方通行的な講義形態の授業が主流だった高等学校の国語の授業も少しずつ変わっていくだろう。

「新しい学力観に立つ授業」という場合、高等学校国語科の現状をにらみながら考えていくと、特に今必要なことは、表現活動を通して思考を深めていくことができるような授業を積極的に展開することであると言える。

## 2 国語科の授業過程の改善

### <導入>

教材に関する意見を書いたり、テーマを班ごとに選択し、事前のグループ学習をすることによって教材の内容に対して興味・関心をもつ。

### <展開>

教材の内容に関する意見や感想を文章に書いた後、フィードバックされたそれらのプリント資料を基に、意見交換をしたり、発表し合ったり、討論的な話し合いをすることによって問題意識を高める。このような活動をとおして、教材の内容を身近な問題としてとらえ、思考を深める。

### <発展・まとめ>

教材の内容に関する意見や小論文を生徒にフィードバックしてやり、その資料を基に、学習状況を自己評価したり相互評価する。そうすることによって、自分の意見や考えを客観的にとらえ直して教材の内容をより深く理解する。

## 3 授業改善事例

「自ら疑問を見付けながら主体的に読む力を育てる評論の読解指導」（県立新潟東高等学校 押木 洋 研究協力員） 「論旨を自分の問題としてとらえる姿勢を身に付けるための読解指導」（県立松代高等学校 外山 美香 研究協力員）